

令和3年度 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン事業の実施状況等について

1 医療分野

●基本目標

指標	基準値 (2014 年末)	実績値 (2018 年末)	目標値 (2020 年末)
圏域の医療施設従事医師数	1,314 人	1,385 人	1,370 人
圏域の看護師・准看護師数	7,712 人	8,159 人	8,310 人

【事業No.1】診療所情報共有・啓発事業 事業費（決算額）： 0 千円

県央地域の休日夜間緊急診療所の開設状況，救急医療の周知等を行い，適正受診の意識啓発を図った。

○ガイドブックの配布

救急医療の現状及び適正受診の啓発のためのガイドブックを 39 万 4 千部作成，圏域の全世帯に配布し（平成 29 年 12 月），引き続き，転入者等に対し配布した。

また，茨城おとな・子ども救急電話相談の電話番号変更など，ガイドブックの一部訂正を行った。

○診療所情報ホームページ掲載

「地域医療の現状～みんなで守ろう地域医療」，「救急医療」，「小児医療」，「産婦人科医療」，「看護師」に係るホームページについて，最新情報に更新した。

○適正受診の啓発

例年 11 月に小児救急に関する健康セミナーを開催しているが，新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。代替事業として，子どもの急なケガや事故が起きた時の対応に関する小児救急の動画を制作し，構成市町村のホームページや動画配信サイトへの掲載により，圏域住民へ広く発信した。

また，新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた適正受診に関する情報を構成市町村の広報紙やホームページ等に掲載した。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
健康セミナー参加者数	0 人	延べ 208 人	延べ 325 人
健康セミナー参加者満足度（5 点満点）	平均 4.3 点 (2017 年度)	平均 4.8 点	平均 4.5 点

【事業No.2】 診療所運営支援事業**事業費（決算額）：7,354 千円**

水戸市休日夜間緊急診療所の運営経費に対して、定住自立圏構成市町村のうち休日夜間診療所を持たない那珂市、茨城町、大洗町及び城里町が患者数に応じて財政支援を行い、運営体制の維持を図った。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
水戸市休日夜間緊急診療所の体制の維持	開設日数：365 日 (夜間、休日昼間含む)	開設日数：365 日 (夜間、休日昼間含む)	開設日数：365 日 (夜間、休日昼間含む)

【事業No.3】 産婦人科医確保事業**事業費（決算額）：19,456 千円**

圏域住民が安心して子供を産み育てられる環境を維持し、県央地域として周産期医療を支えるため、安定的な医師の確保に苦慮している水戸赤十字病院に対して、産婦人科医確保に係る経費について、財政支援を行った。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
水戸赤十字病院の産婦人科医数	8 人	7 人	8 人

【事業No.4】 小児科医確保対策事業**事業費（決算額）：0 千円**

医師確保の必要性を周知するため、県央地域における小児医療の調査及び平成 30 年医師・歯科医師・薬剤師調査結果をもとに、小児医療の現状等に関する内容を構成市町村の「小児科医」のホームページへ掲載した。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
小児科医の確保数	0 人	一人	1 人

【事業No.5】 看護師等確保事業**事業費（決算額）：57 千円**

例年 9～10 月に実施している看護師等病院見学ツアーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。代替事業として、潜在看護師の復職を支援する動画を制作し、

構成市町村のホームページや動画配信サイトへの掲載により、圏域住民へ広く発信した。

また、茨城県ナースセンターが実施する看護職の就職・復職に役立つ情報を構成市町村の広報紙に掲載したほか、水戸市医師会看護専門学院における特定市町村推薦入試への推薦を行い、圏域内（※）の准看護師の養成を支援した。

※ 構成市町村のうち笠間市を除く。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
病院見学ツアー参加者数	0人	延べ20人	延べ100人
復職看護師数	0人	延べ15人	延べ45人

【事業No.6】小中学生病院体験ツアー事業

事業費（決算額）：80千円

例年8月に開催している小中学生病院体験ツアーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止とした。代替事業として、医師の魅力を紹介する動画を制作し、構成市町村のホームページや動画配信サイトへの掲載により、圏域住民へ広く発信した。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
病院体験ツアー参加者数	0人	延べ106人	延べ150人

2 福祉分野

●基本目標

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
圏域内法人の後見受任件数	8 件	42 件	45 件

【事業No.7】 成年後見制度の普及啓発

事業費（決算額）： 660 千円

○パンフレットの作成・配布

制度についてわかりやすく説明したパンフレット等を作成・配布し、制度の普及啓発を行った。

- ① パンフレット 4,000 部（構成市町村の関係窓口等に設置）
- ② リーフレット 5,000 枚（構成市町村の関係窓口等に設置）

○ニュースレター「権利擁護サポートセンター便り」の発行

ニュースレターを発行し、圏域内自治体、社会福祉協議会、市民後見人養成講座修了者に送付した。

○広報紙、ホームページ、フェイスブックへの掲載

制度の説明やニュースレター「権利擁護サポートセンター便り」を掲載した。また、ホームページ、フェイスブックに住民向け学習会の開催案内及び報告書を掲載したほか、ツイッターにて出前講座に関するチラシを掲載した。

○成年後見制度に関する住民向け学習会・相談会の開催

- ・令和3年12月13日（月）に地域医療センターかさまにて、住民向け学習会を開催し、24名が参加した。講師の行政書士より、判断能力が低下した際や他界した際に備え、エンディングノートを活用する大切さと成年後見制度の概要について学習した。



エンディングノートを用いて講演



熱心に講演を聴く参加者

- ・令和4年2月7日（月）に水戸市役所本庁舎にて、住民向け学習会を開催し、44名が参

加した。講師の大塚喜封弁護士より、遺言と成年後見制度について学習した。



法テラス業務や無料法律相談の申し込み方法について説明



「申立ての流れが具体的にイメージできた」等の感想があった

- ・令和4年2月15日（火）に小美玉市生涯学習センターコスモスにて、住民向け学習会を開催し、26名が参加した。講師の宮田久雄ファイナンシャルプランナーより、成年後見制度のメリット等について学習した。



成年後見制度のメリットについて説明



「家族想いの人」になるために、今から行動を！

- ・令和4年3月1日（火）に城里町役場本庁舎にて、住民向け学習会を開催し、18名が参加した。講師の宮田久雄ファイナンシャルプランナーより、成年後見制度の概要等について学習した。



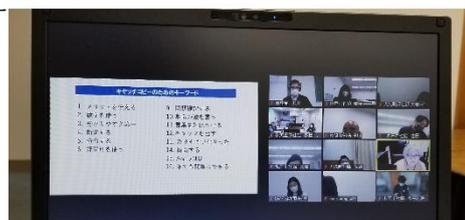
法定後見制度と任意後見制度について説明



事例から相続について学ぶ

○普及啓発に係る研修

- ・令和4年2月10日（木）にオンラインにて、成年後見制度の普及啓発を目的として、圏域内連携市町村等向け「人が集まるチラシの作り方講座」を開催し、16名が参加した。講師のナミキセツコチラシマイスターより、広報に



～企画とチラシは表裏一体～「何のために」、 目を引くキャッチコピーが大切であると説明
 「誰のために」開催するのかを考える

○研修会講師派遣

水戸市社会福祉協議会職員が研修会講師として、制度の普及啓発に努めた。

開催日	内 容	場所・方法	参加者数
令和4年1月28日	ディライトホーム 利用者及び家族への講演	ディライトホーム	30名

○普及啓発強化としての取組

- ・「成年後見人向け無料相談会」の広報について、圏域全市町村報に掲載し、普及啓発の強化月間としての取組を行った。
- ・圏域内の金融機関窓口にパンフレットとリーフレットを設置していただけることになった。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
住民向け学習会の参加者数	0人	112人 (延べ1,528人)	延べ300人

【事業No.8】成年後見制度の利用支援

事業費（決算額）： 80千円

水戸市社会福祉協議会権利擁護サポートセンターにおいて、電話・来訪等により、成年後見制度の利用手続きなどに関する相談を受け付けた。

・水戸市社会福祉協議会権利擁護サポートセンター相談件数：1,104件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
80	51	61	75	101	79	99	127	100	106	96	129	1,104

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
権利擁護・成年後見制度に係る相談件数	0 件	1,104 件	180 件

【事業No.9】 市民後見人の養成及び活動支援

事業費（決算額）： 203 千円

○生活支援員及び法人後見支援員としての活動

養成講座修了生に対する活動支援として、圏域内市町村社協で実施している日常生活自立支援事業の生活支援員及び法人後見支援員として実務経験を積んでいただくための活動機会を提供した。

○ニュースレター「権利擁護サポートセンター便り」の発行（再掲）

権利擁護サポートセンターの取組状況を発信することや、市民後見活動希望者同士のつながりをもつことを目的として、各市町村で開催される住民向けの学習会の案内、成年後見制度の動向やその他スキルアップにつながる内容、市民後見人養成講座修了者へのインタビュー等を掲載したニュースレターを発行した。

○日常生活自立支援事業の生活支援員及び法人後見事業の法人後見支援員としての活動

圏域内市町村社協で実施している日常生活自立支援事業の生活支援員及び法人後見支援員として実務経験を積んでいただくための活動機会を提供した。

養成講座修了生の後見等業務活動実績 11 名（令和 4 年 3 月末時点）

○市民後見人養成講座フォローアップ研修

令和 4 年 1 月 18 日（火）に水戸市福祉ボランティア会館にて、市民後見人養成講座修了生のスキルアップを目的とした「市民後見人養成講座フォローアップ研修」を開催し、24 名が参加した。講師の竹之内章代茨城県社会福祉士会会長より、「支援記録の書き方」について学習した。



記録は、支援の考察や分析の根拠となる大事な情報になること、個人情報が多いため、権利や利益を守る必要があること、記録のスキルをあげることで、より良い支援につながることを再認識することができた。

○市民後見人として選任される者の活動について、家庭裁判所等専門機関と連携

市民後見人の3人目の選任に向けて、家庭裁判所と継続して協議する。

○成年後見監督人の受任

昨年度誕生した市民後見人の監督人として、水戸市社会福祉協議会が監督及び活動支援を行った。

○親族後見人向けチラシの作成

子や親等の親族の後見人になっている方（親族後見人）への後見活動支援として、本会の後見人登録者名簿への登録を行い、登録者に対して学習会や相談会等の情報を周知できるよう、チラシを作成した。チラシは家庭裁判所からの送付、圏域内市町村等の窓口にて配布している。

後見人名簿登録者 14名（令和4年3月末時点）

○後見人向け無料相談会の開催

新たな試みとして令和3年11月に、圏域内の4会場において、成年後見人向け無料相談会を実施し、8件の相談について弁護士、福祉専門職等が応じた。参加者からは「親族の後見人に選任され、家庭裁判所への定期報告をどのように行えばよいのか教えてほしい」、「子どもの後見人になっているが、私も高齢になってきており、後見人の引継ぎをどのように行えばよいのか教えてほしい」等の相談があった。

成年後見人向け無料相談課の開催状況

開催日	会場	相談組数
令和3年11月09日（火）	水戸市会場（稲荷第一市民センター）	3組
令和3年11月19日（金）	小美玉市会場（小美玉市役所玉里総合支所）	1組
令和3年11月26日（金）	東海村会場（東海村総合福祉センター 絆）	3組
令和3年11月30日（火）	笠間市会場（地域医療センターかさま）	1組

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
養成講座修了生の後見等業務活動件数	0件	11件	12件

【事業No.10】成年後見制度法人後見支援

事業費（決算額）： 83千円

○法人後見事業の実施を検討している法人に対して情報提供

法人後見事業の実施を検討している法人に対して、具体的な後見業務等の情報提供を行った。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
法人後見実施団体数	3団体	4団体	6団体

【事業No.11】法人後見の受任

事業費(決算額): 60千円

○成年後見人等の受任

圏域内において、首長申立てにより後見を開始する案件について、成年後見を受任した。

なお、受任にあたっては、「権利擁護サポートセンター法人後見受任審査会」で受任の可否を審査した。

現受任件数(令和4年3月末時点)

15件(内訳 認知症高齢者9件、知的障害者4件、精神障害者1件、その他1件)

延べ受任件数(平成28年～)

26件(内訳 認知症高齢者20件、知的障害者4件、精神障害者1件、その他1件)

終了件数(令和3年度)

2件(内訳 認知症高齢者2件)

○受任審査会の開催

開催日	内 容	場 所	出席者数
令和3年5月26日	水戸市高齢福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否)	水戸市福祉ボランティア会館	6名
令和3年6月23日	大洗町福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否)	水戸市福祉ボランティア会館	6名
令和3年7月28日	小美玉市介護福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否)	水戸市福祉ボランティア会館	6名
令和3年9月22日	水戸市高齢福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否) 水戸市障害福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否)	水戸市福祉ボランティア会館	5名
令和3年11月24日	水戸市高齢福祉課 審査数1件(受任 <input checked="" type="radio"/> 可・否)	水戸市福祉ボランティア会館	5名

○成年後見監督人の受任(再掲)

市民後見人の選任に伴い、水戸市社会福祉協議会が市民後見人の監督人として受任。

現受任件数(令和4年3月末時点)

1件(内訳 認知症高齢者1件)

延べ受任件数

2件(内訳 認知症高齢者2件)

終了件数(令和3年度)

0件

<重要業績評価指標(KPI)>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
法人後見受任件数	3 件	17 件 (延べ 26 件)	30 件

【事業No.12】 県央地域成年後見支援事業の運営支援

事業費（決算額）：24,716 千円

県央地域成年後見支援事業を実施する水戸市社会福祉協議会に対し、運営経費について支援することにより、以下の事業の安定的な推進を図った。

- ・ 成年後見制度の普及啓発 ・ 成年後見制度の利用支援
- ・ 市民後見人の養成及び活動支援 ・ 成年後見制度法人後見支援 ・ 法人後見の受任

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
水戸市社会福祉協議会 で県央地域成年後見 支援事業に従事する 職員の数	0 人	3 人	3 人

3 産業振興分野

●基本目標

指標	基準値 (2015年)	実績値 (2020年)	目標値 (2021年)
圏域全体の観光交流人口	19,202,700人	11,027,200人	22,145,000人

【事業No.13】 県央地域内の観光マーケティング調査

事業費（決算額）：5,000千円

茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンの5年間に実施してきた事業の効果検証とともに、今後の施策の参考とするため、マーケティング調査を実施した。調査内容としては、協議会がメインターゲットに設定している「20～30歳代女性」の来訪割合の動向を中心に検証するための観光客の動態調査を行った。あわせて、メインターゲットに向けて実施してきた施策の効果を検証するため、観光資源に関する認知度・関心度を把握するWEB調査を行った。

【主な調査結果】

- ・前回調査から来訪者の属性に大きな変化はなく、男性が6割、年齢層別では50歳以上が4割を占めている。
- ・旅程は日帰りが最も多く73.9%、宿泊地では水戸市が最も多く19.9%であった。
- ・来訪未経験者の理由としては、前回同様「旅行先としてのイメージが浮かばなかった」が4割強と最も多いものの、前回よりも1割弱低下しており、旅行先としてのイメージの浸透が図られている。
- ・来訪意向は、メインターゲット層が7割弱で最も高い。
- ・専用ホームページの認知度は1割弱と低いが、「県央地域に行ってみたくなった」が7割弱と態度変容率は高く、効果的な見せ方ができている。
- ・観光情報の情報源としては、SNSが上昇しており、特にInstagram、動画サイトは前回より2倍近く伸びている。

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
観光マーケティング調査の実施回数	0回	7回	3回

【事業No.14】 県央地域魅力発信事業

事業費（決算額）：19,122千円

○マルシェイベント（土産品等物産展）の実施

県央地域に根付く食資源を代表する色として、チーズ、ヨーグルト、しらす等の「白」と、納豆、栗、干しいも等の「茶」の2色をテーマとしたマルシェイベントを通じ、県央地域の特

製品の認知度向上を図るとともに、販売促進につながるPRを実施した。また、イベント後の観光誘導を図ることを目的に観光PRブースを設け、9市町村の観光パンフレットや観光名所のポストカードを配布し、県央地域の魅力を発信した。

▽「茨城まんなか しろとちやマルシェ」

- ・ 期日：令和4年1月27日（木）11時～20時
1月28日（金）・29日（土）10時～20時
1月30日（日）10時～18時
- ・ 場所：イーアスつくば1階イーアスコート（つくば市研究学園5丁目19番地）
- ・ 出品：22事業者，30商品



<販売ブース>



<観光PRブース>

○食資源を活用したプロモーション

県央地域の「食」を通じた更なる魅力発信・認知度向上を図るため、フードエッセイストの平野紗季子氏に県央地域の飲食店や特産品を取材していただき、20～30歳代女性を読者層としている「SPRING」の2021年12月号に記事を掲載し、あわせて、専用のホームページやInstagramで情報発信を行った。



<SPRING 2021年12月号 掲載ページ>

また、食資源を活用した商品開発施策については、令和2年度に続く第2弾として、水戸市の卵、小美玉市のマンゴー、イチゴ、ブルーベリー、茨城町の栗を使用した「あす旅サンドクッキー」と、水戸市の卵、大洗町の蔵元の日本酒を使用した「バウムクーヘン」を開発・販売し、新たな食資源を通じて県央地域の魅力を発信した。

【商品詳細】

	販売価格（税込）	販売実績
サンドクッキー	単品 200 円， 3 個セット 650 円	721 箱（2, 163 個）
バウムクーヘン	1, 650 円	1, 105 個

販売場所 アトリエ プティ・ボア，茨城空港スカイアリーナ，空のえきそ・ら・ら物産館，月の井酒造店，笠間工芸の丘



<サンドクッキー(左)とバウムクーヘン(右)>

<茨城新聞 10 月 20 日号>

○Instagram の運用

当協議会のメインターゲットである 20~30 歳代女性に対し，県央地域のメインの魅力である「食」・「花」・「絶景」を効果的に発信するため，Instagram に令和 3 年 8 月から専用アカウントを開設した。ホームページへの誘導及び情報発信力の強化につながる手法であることから，SNS のリアルタイム性を意識した，より細やかで旬な情報の定期的な発信に努めている。（3 月末現在：1, 665 フォロワー）



<あす旅 Instagram アカウント>

また，SNS コミュニティ「東京女子部」の体験レポーター 2 名参加によるモニターツアーを実施し，巡った観光スポットを各自及び「東京女子部」の Instagram で発信・拡散（推定投稿閲覧数：187, 434）していただくことで，県央地域及び当協議会 Instagram アカウントの認知度向上を図った。

▽モニターツアー

- ・期日：令和 4 年 3 月 11 日（金）～13 日（日）
- ・行程：

【1 日目】東京駅→MERCY' s COFFEE（城里町）→木内酒造店（那珂市）
→国営ひたち海浜公園（ひたちなか市）→酒列磯前神社（ひたちなか市）
→ETOWA KASAMA（笠間市）

- 【2日目】ETOWA KASAMA→笠間工芸の丘（笠間市）→うなぎや（茨城町）
 →大洗磯前神社（大洗町）→南浜ビーチガーデン（ひたちなか市）
 →アクアワールド茨城県大洗水族館（大洗町）→水戸プラザホテル（水戸市）
- 【3日目】水戸プラザホテル→アトリエ プティ・ボア（小美玉市）→偕楽園（水戸市）
 →水戸プラザホテル→鈴木ハーブ研究所（東海村）→東京駅
- ・体験レポーター：@maaayfloower _sisters（フォロワー2.1万人）
 @reikonohmi（フォロワー3.4万人）

○「d design travel 茨城」号発刊を活用したプロモーション

令和元年度に実施した渋谷ヒカリエ d47 食堂における県央定食の開発・販売の継続的な事業として、D&DEPARTMENT が制作する“デザインの目線”を持ったロングライフな観光ガイド「d design travel」の茨城号発刊に当協議会も協力し、笠間焼や常陸野ネストビールといった県央地域の観光資源を紹介する特集記事（12 ページ、特集マップ2 ページ）を掲載した。

また、茨城号の発刊に連動した渋谷ヒカリエでの展覧会や、オンラインイベント等により、県央地域の認知度向上を図るとともに、SNS等を通じて実施状況等の情報発信を行った。



<特集ページ>



<特集マップ>

▽「d design travel IBARAKI EXHIBITION」

茨城号発刊記念イベントとして開催した展覧会では、茨城号で取り上げた観光スポットをはじめ、カフェ・食事・宿・買物・人の魅力の紹介とあわせ、県央地域の特別展示台と特設販売コーナーを設置し、9市町村の魅力もPRした。

渋谷ヒカリエが4月25日（日）から休業となったが、5月20日（木）からは、自宅等でも楽しんでいただけるように、D&DEPARTMENT 公式 YouTube チャンネルにおいて展覧会会場の映像を特別公開した。

- ・会期：令和3年2月26日（金）～6月27日（日）
 うち休業期間 4月25日（日）～6月20日（日）
- ・会場：d47 MUSEUM（渋谷ヒカリエ8F）
- ・来場者数：6,071人

▽「d47 落語会」

落語家の柳家花緑氏による茨城を題材にしたご当地落語や、茨城の魅力を新たな視点から語るトークショーを実施した。また、水戸で開催されたものについては、オンライン配信

された。

【水戸開催】

- ・期日：令和3年4月15日（木）
- ・会場：水戸芸術館ACM劇場
- ・来館者数：212名

【東京開催】

- ・期日：令和3年4月21日（水）、22日（木）
- ・会場：渋谷ヒカリエ8階 8/COURT
- ・来場者数：94名（2日間合計）※両日スタッフ含め70名の入場制限あり

【オンライン配信】

- ・配信期間：令和3年4月29日（木）～5月12日（水）
- ・申込数：44名



<d47 落語会>

○観光キャンペーンの実施

広域観光の推進を図るため、秋の行楽シーズンにあわせ、道の駅グランテラス筑西において、当協議会主催のイベント告知や各市町村の観光パンフレット等の配布を行うとともに、Instagram アカウントを当日フォローしてくれた方へのプレゼントキャンペーンを行った。

- ・期日：令和3年10月30日（土）
- ・場所：グランテラス筑西
- ・内容：観光パンフレット及びチラシの配布、Instagram フォローキャンペーン



○広告の出稿

専用ホームページへの誘導と流入強化、ひいては県央地域の認知度向上を図ることを目的として、旅行需要の高まる秋の時期にあわせてアフィリエイト広告（令和3年10月5日～11月4日（31日間））を実施した。女性のためのターゲット配信を行った結果、表示回数に対するクリック率は昨年度実績の2倍と大幅に高くなり、興味・関心を引く効果的な発信ができた。

○広域観光ガイドブックの刷新

令和2年度に刷新したガイドブック「いばらき県央 あす旅手帖」を15,000部増刷し、県央地域の各観光案内所、宿泊施設、キャンペーン等で配布した。



<いばらき県央 あす旅手帖>

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2015年度) (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
土産品イベントの出品数	0品 (2016年度)	延べ101品	延べ100品
いばらき県央地域観光協議会ホームページのページビュー数	51,999ページビュー	94,177ページビュー	100,000ページビュー
外国人観光客向けキャンペーンの実施	0回	2回	4回

【事業No.15】周遊型観光の推進事業

事業費（決算額）：12,791千円

○周遊ツアーの催行

令和元年度までに造成したコースをもとに、旅行事業者への委託による周遊ツアーの販売・催行を実施した。

催行ツアー数：4ツアー 集客数：54名

※当初催行予定ツアー数：7ツアー 申込数：約240名

①茨城の御朱印御城印めぐり・小美玉三社と復元水戸城 弘道館と潤沼「うなぎや」のうなぎ弘道館や復元された水戸城大手門、二の丸角櫓の見学と小美玉市の3つの神社を参拝する、

御城印と御朱印巡りを楽しんでいただくツアーを実施した。

- ・期日：令和3年11月20日（土）
- ・参加者：18名
- ・行程：水戸駅→弘道館→うなぎや→百里神社→空のえきそ・ら・ら→耳守神社
→素鷲神社→水戸駅

②茨城の御朱印めぐり 城里・那珂・東海編と那珂湊で年末のお買い物

城里・那珂・東海の4つの寺社の御朱印巡りと、那珂湊おさかな市場での新鮮な海鮮物のお買い物が楽しめるツアーを実施した。

- ・期日：令和3年12月18日（土）
- ・参加者：16名
- ・行程：水戸駅→小松寺→ふれあいの里→静神社→一乗院→村松虚空蔵堂→おさかな市場
→大丸屋→水戸駅

③日本一のほしいもの里・ひたちなかでほしいも作り体験と常陸牛ハンバーグランチ新春パワースポットめぐり

日本一のほしいもの里「ひたちなか」で、ほしいも作りやほしいも神社への参拝等、ほしいもを堪能するツアーを実施した。

- ・期日：令和4年1月21日（金）
- ・参加者：11名
- ・行程：勝田駅→ほしいも神社→ほしいもづくり体験→café&space TOIRO→酒列磯前神社
→大洗磯前神社→別春館→水戸駅

④いばらき女子旅SNS映えスポットめぐり

全国有数の映えるフォトスポット&パワースポットめぐりに加え、大洗での朝ヨガ体験やご当地栗をつかったモンブラン、老舗酒蔵の作りたて日本酒等、県央地域の魅力を詰め込んだ週末利用の宿泊ツアーを実施した。

- ・期日：令和4年2月26日（土）～27日（日）
- ・参加者：9名
- ・行程：
【1日目】各地→サザコーヒー本店→ほしいも神社→酒列磯前神社→レストランメヒコ
→偕楽園→マロン→（水戸市内宿泊）
【2日目】朝ヨガ体験（大洗）→大洗磯前神社→トラットリアJマリーナ→石切山脈
→磯蔵酒造→笠間稲荷神社→道の駅かさま→各地

○体験プログラムの充実

各市町村の担当者が、他市町村の体験プログラムを実際に体験・取材し、ブログ記事として、順次ホームページで紹介する「あす旅体験ブログ」を実施し、あわせて、その記事を、ターゲットとしている女性層も含め、幅広い読者層を誇る「月刊ぷらざ（県南版）」に連載（令和3年11月号～）した。掲載に当たっては、担当者目線による分かりやすい、身近に感じること

ができる記事として魅力発信を行い、県央地域の体験プログラムの認知度向上と誘客促進を図った。



<月刊ふらぎ（県南版） 掲載ページ>

○県央地域内の観光資源魅力向上事業の推進

視認性を高めることによるイベントへの集客力とあわせ、県央地域及び「あす旅」の認知度の向上を図り、魅力発信を強化するため、観光キャンペーンやイベントで使用する装飾備品等を制作した。



○サイクルツーリズムの推進

令和2年度に設定した県央地域内を周遊できる3つのサイクリングコースについて、立寄りスポット等を紹介したり、コースをナビゲーションする特設ページを専用ホームページ内に制作し、サイクリングコースの周知を図った。

また、サイクリングコースを活用した周遊イベント「ライドアROUND in central いばらき」を開催し、県央地域への誘客とともに観光消費の促進を図った。イベントの周知に当たっては、インフルエンサーでもある3人のサイクリストに、それぞれ県央地域の3つのエリア（①水戸・那珂・城里エリア、②笠間・小美玉・茨城エリア、③ひたちなか・大洗・東海エリア）に分かれて、各エリアをサイクリングしながら、観光スポットやグルメを堪能する様子について、SNSやYouTubeで発信していただき、県央地域の認知度向上も図った。

- ・期間：令和3年10月1日（金）～12月5日（日）
- ・スポット数：108箇所

- ・参加者数：237名
- ・チェックイン数：3,143回（※チェックイン数とは、参加者がスポットを訪れた数。）



- ・サイクリストによる情報発信（YouTube）

篠さん（①水戸・那珂・城里エリア） 10,434回再生	tom's cyclingさん（②笠間・小美玉・茨城エリア） 34,268回再生
	
あむさん（③ひたちなか・大洗・東海エリア） 3,905回再生	
	

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
周遊イベント（水戸八景グルメライドを想定）の県外参加者率	36% (2015年度)	10%	45%
周遊ツアーの造成	0本	21本	8本
周遊ツアーの集客数	1,720人 (2018年度)	2,299人	3,000人

4 環境分野

●基本目標

指標	基準値 (調査時点)	実績値	目標値 (達成年度)
取組を実施する住民1人当たりの電力使用による二酸化炭素排出量	58.5kg-CO ₂ (2015年11月)	53.9kg-CO ₂ (2021年11月)	8%削減 (2021年11月)
	74.2kg-CO ₂ (2014年12月)	63.9kg-CO ₂ (2020年12月)	8%削減 (2020年12月)

【事業No.16】エコライフチャレンジ

事業費(決算額): 580千円

10月～11月の電気使用量(電力会社からの「電気ご使用量のお知らせ」11月分)と1年前の同時期の電気使用量を比較し、その削減量を競う「CO₂削減 エコライフチャレンジ 2021」を実施した。

- ・対象：県央地域に居住する者、構成市町村職員
- ・実施期間：令和3年10月～11月までの2か月間
- ・周知方法：広報やSNSのほか、案内チラシ等により周知を図った。

【参考：令和3年度エコライフチャレンジ参加者数】

水戸市	笠間市	ひたちなか市	那珂市	小美玉市	茨城町	大洗町	城里町	東海村	合計
480人	456人	52人	294人	29人	40人	21人	30人	217人	1,619人

<重要業績評価指標(KPI)>

指標	基準値 (2015年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
エコライフチャレンジ参加者数	1,317人	1,619人	2,000人

【事業No.17】環境啓発イベントへの相互参加

事業費(決算額): 0千円

「茨城県央地域環境活動ガイドブック」を活用し、環境啓発イベントや環境保全活動、環境学習会などの情報を広く発信することで、圏域内において開催されている各種イベントへの相互参加を促進した。

(相互参加イベント)

水戸市環境フェア 2021 (水戸市, 令和3年6月5日, 6日開催)

環境シンポジウム 2022 (ひたちなか市, 令和4年2月5日開催)

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
環境啓発イベントの開催回数	4 回	2 回	6 回

5 教育分野

●基本目標

指標	基準値 (2015 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
圏域内住民の広域利用者総数	263,766 人	244,045 人	270,000 人

【事業No.18】 公の施設の広域利用に係るPR事業 事業費（決算額）： 284 千円

○「いばらき県央地域ガイド」ホームページの充実

ホームページの内容を、随時、最新のものに更新した。また、下記キャンペーンの詳細についても掲載した。

○広域利用促進キャンペーン（スタンプラリー）の実施

- ・開催期間：令和2年8月1日から令和3年3月31日
- ・対象施設：県央地域9市町村内の体育施設、図書館などの公の施設 93施設
- ・周知方法：茨城県央地域ガイドホームページ、各市町村広報紙及び各対象施設へ配布したガイドブック（6,000部作成）等を活用し、周知を図った。
- ・参加者：246名（令和4年3月末現在）
- ・参加賞：オリジナルデザインのクリアファイル

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2016 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
いばらき県央地域ガイドホームページのページビュー数	309,554 ページビュー	154,137 ページビュー	360,000 ページビュー
利用促進キャンペーンの参加者数	0 人	延べ1,372 人	延べ6,000 人

【事業No.19】 公の施設の広域利用に係る利便性向上事業

○利便性向上に向けた検討

公の施設の広域利用について、利用者のニーズの把握等を行うため、アンケート調査を実施した。

調査期間 令和3年8月～10月
回答数 808件

(結果の概要)

主 な 調 査 項 目		回答割合
広域利用制度を	知っていた	57.4%
	知らなかった	42.6%
広域利用制度を利用したことが	ある	62.7%
	ない	37.3%
制度で利用した他市町村の施設（複数回答）	スポーツ施設	63.0%
	図書館	43.1%
	ホール・会館	19.9%
	レク施設	14.8%
	展示施設	7.1%
今後この制度で他市町村の施設を利用したいか	大いに利用したい	43.5%
	やや利用したい	30.4%
対象施設を拡充すべきか	充実すべき	40.1%
広域利用制度について	非常によい	27.4%
	よい	42.9%

6 地域公共交通分野

●基本目標

指標	基準値 (2015 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
中心市の路線バスの1日 当たりの利用者数	29,830 人	29,862 人 (2020 年度)	32,800 人

【事業No.20】公共交通の維持・確保

事業費（決算額）：14,500 千円

○先行事業の実施（城里町）

路線バス石塚・赤塚線の運行（令和2年4月1日から平日1日9便、休日1日6便運行）

<利用状況>

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
9,801 人	10,970 人	12,791 人	13,167 人	15,656 人

○地域公共交通の域外運行（那珂市）

那珂市「ひまわりタクシー」の水戸市乗入（平成31年4月1日から）

<利用状況> ※水戸駅北口は、降車のみ。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
那珂市⇒水戸駅北口	649 人	509 人	777 人
那珂市⇒京成百貨店	461 人	411 人	346 人
京成百貨店⇒那珂市	715 人	640 人	601 人
合計	1,825 人	1,560 人	1,724 人

水戸市「1,000円タクシー」の那珂市乗入（令和3年4月1日から）

<利用状況>

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
水戸市⇒那珂市内医療機関	-	-	13 人
那珂市内医療機関⇒水戸市	-	-	14 人
合計	-	-	25 人

<重要業績評価指標（KPI）>

指標	基準値 (2015年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
水戸市と近隣市町村を結ぶ路線バスの系統数	88 系統	86 系統 (2020年度)	85 系統

【事業No.21】公共交通の利用促進

事業費（決算額）： 260 千円

○ノーマイカーウィークの実施

公共交通の利用を促進するとともに、過度なマイカー利用がもたらす地球温暖化問題への意識の高揚を図るため、ノーマイカーウィークを実施した。

<第1回>

期 間 令和3年6月1日（火）～7日（月）

対象者 構成市町村の職員

実 績 3,740人の構成市町村職員がマイカー利用を控える取組に参加した。

<構成市町村職員の取組状況>

水戸市	笠間市	ひたちなか市	那珂市	小美玉市
1,744人	405人	475人	319人	311人
茨城町	大洗町	城里町	東海村	合 計
173人	117人	11人	155人	3,740人

<第2回>

期 間 令和3年12月20日（月）～26日（日）

対象者 構成市町村の住民、通勤者及び通学者、構成市町村の職員

実 績 構成市町村職員がマイカー利用を控える取組に参加した。また、構成市町村ごとに公共交通の利用を促進するための取組を実施した。



<告知チラシ (第2回)>

<構成市町村職員の取組状況>

水戸市	笠間市	ひたちなか市	那珂市	小美玉市
1,786人	424人	565人	319人	205人
茨城町	大洗町	城里町	東海村	合計
155人	128人	16人	203人	3,801人

<重要業績評価指標 (KPI)>

指標	基準値 (2017年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2021年度)
水戸市と近隣市町村を結ぶ路線バスの1日当たりの利用者数	8,657人	6,206人 (2020年度)	9,600人

7 人材育成分野

●基本目標

指標	基準値 (2015 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
圏域内市町村の合同研修及び他市町村が開催する研修に参加する職員数	0 人	延べ 298 人	延べ 270 人

【事業No.22】職員の能力向上に向けた研修会の合同開催及び相互参加

○構成市町村が開催する研修会への相互参加

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、実施を見送った。

○合同研修

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、実施を見送った。

<重要業績評価指標 (KPI)>

指標	基準値 (2015 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2021 年度)
合同研修開催回数	0 回	延べ 6 回	延べ 6 回
研修相互参加人数	0 人	延べ 144 人	延べ 90 人